**学外研修報告書**

共通機器部門　共通利用機器管理班

柿村 順一

**第55回 NMR討論会・チュートリアル 参加報告**

**1.　はじめに**

　核磁気共鳴（以後NMRと略す）にかかわる最新の研究発表の聴講並びに情報交換を行い、教育・研究支援のための知識・技術を向上させることを目的として参加した。

**2.　期間・場所**

期間：平成28年11月15日～18日（15日：チュートリアル、16日~18日：討論会）

会場：広島国際会議場（広島県広島市）

**3.　参加者等**

大学、研究所、企業等のNMR研究等にかかわる研究者・学生・技術者　約300名

**4.　研修内容**

聴講したチュートリアル・講演の内容は以下の通りである。

チュートリアル～ フーリエ変換を工夫してNMRスペクトルをよみがえらせる、四極子核個体NMR法の基礎の基礎、NMRを作った人たち：第1話

 測定時間を短縮する方法について振り返る

討論会～口頭発表（一般演題、Invited Lecture、Honorary Lecture、オーガナイザーセッション）、およびポスターセッションの聴講・ディスカッション

**5.　まとめと感想**

本討論会では様々な分野における最先端のNMR研究について聴講することが出来た。業務でかかわっている天然物・生体高分子の溶液測定のみならず、多核・固体測定やMRI分野の発表も多く、幅広い分野におけるNMRの応用を学ぶことができた。業務にかかわる内容としては、測定におけるパルスプログラムの選択、測定間のブレを少なくするための工夫、生体試料を扱う上での注意点などの知識の習得、情報交換を行った。

チュートリアルでは、より実践的なデータ処理方法についての解説、NMRの基礎を聴講することができた。特にデータ処理については早々に業務に還元できる内容であったため、非常に有意義な時間を過ごすことができた。

また、今回の討論会のオーガナイザーが業務支持者であったため、会場の設営・撤収および運営の支援も併せて行った。

今回の研修の内容を基に研鑚を積み、今後の業務の質と効率の向上を目指したい。